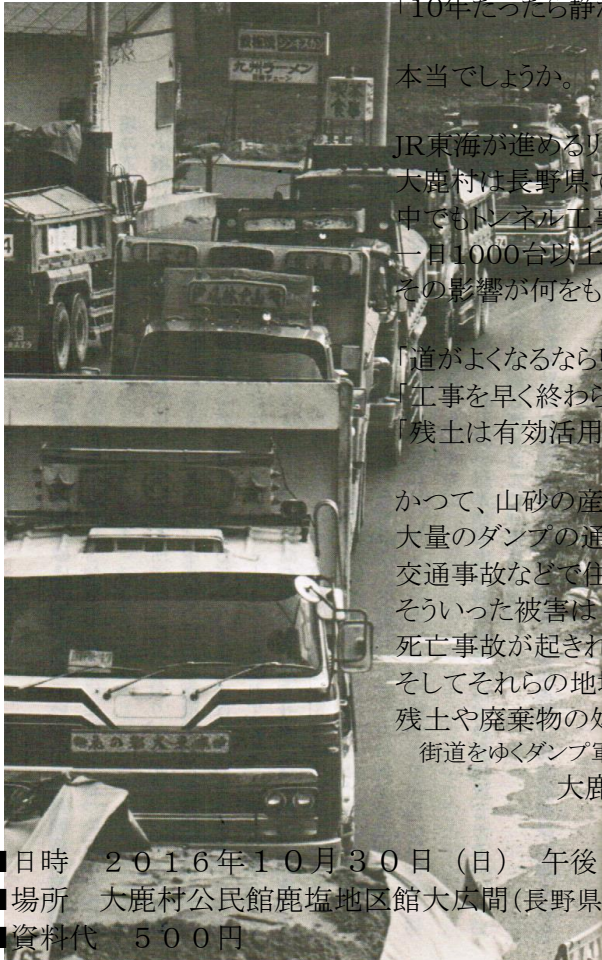


# ああ、大鹿ダンプ街道

～リニア工事が終われば村は元に戻るのか～



「10年たったら静かな大鹿村に戻る」

本当でしょうか。

JR東海が進めるリニア中央新幹線事業。  
大鹿村は長野県で最大の影響を被ります。  
中でもトンネル工事によって排出される残土を運ぶために  
一日1000台以上の工事車両が通行する予定です。  
その影響が何をもたらすのか、誰も予測が付きません。

「道がよくなるならリニアは受け入れるべきだ」

「工事を早く終わらせるため、多少は我慢しないと」

「残土は有効活用できるから村内に置いてもいい」

かつて、山砂の産出地域では、  
大量のダンプの通行による騒音・振動、粉じん、排気ガス、  
交通事故などで住民の生活環境が大きく壊されました。  
そういった被害は「ダンプ公害」と呼ばれています。  
死亡事故が起きれば道を広げ、バイパス道が作られました。  
そしてそれらの地域では現在、  
残土や廃棄物の処分場の問題に住民たちは悩んでいます。  
街道をゆくダンプ軍団(『ああダンプ街道』より)

大鹿村は「ダンプ街道」と無縁でしょうか、それとも……

■日時 2016年10月30日(日) 午後2時～4時

■場所 大鹿村公民館鹿塩地区館大広間(長野県下伊那郡大鹿村大字鹿塩2610)

■資料代 500円

□お話

佐久間充さん(女子栄養大学名誉教授、保健社会学)「各地のダンプ街道のこれまで」

佐々木悠二さん(元高校教員、小櫃川の水を守る会事務局長)「千葉県君津市の残土・廃棄物問題・ダンプ公害」

□報告(予定) 「大鹿村の残土置き場の実情」

## 主催 「ああ、大鹿ダンプ街道」集会実行委員会

TEL 0265-39-2067(宗像)

### 講師紹介

#### ・佐久間充

1937年生まれ。東京大学、女子栄養大学で教える。1970年代から学生とともに千葉県君津市のダンプ公害の調査を行う。住民だけでなくダンプにも同乗した綿密で公平な調査は、他地域のルボとともに『ああダンプ街道』(岩波新書、1984年)にまとめられた。他著書に『山が消えた 残土・産廃戦争』(岩波新書、2002年)

#### ・佐々木悠二

千葉県君津市在住。高校の元地理の先生。在職時から小櫃川を守る活動を30年近く続ける。また、君津地域のダムや山砂採取、産業廃棄物、放射性廃棄物、干潟などの環境問題に取り組み、いくつもの開発計画を食い止める。地元三市の水道水源保護条例や、県外からの残土持ち込みを防ぐ君津市の残土条例の制定にも尽力。